

第 1 回検討会における主な意見 (バイオエタノールの導入拡大に係る危険物規制)

消防庁危険物保安室

現状と課題

- 「エネルギー基本計画」（令和 7 年 2 月閣議決定）において、「2050年カーボンニュートラル実現に向けて、**2030年度までに最大濃度10%の低炭素ガソリン（E10）**の供給開始を目指す。**2040年度から最大濃度20%の低炭素ガソリン（E20）**の供給開始を追求する」旨の方針が示されたほか、「経済財政運営と改革の基本方針2025」（令和 7 年 6 月13日閣議決定）において、「**バイオ燃料を含め、需要創出のための制度の検討を行う**」との方針が示されるなど、バイオエタノールの導入拡大に向けて対応が求められている。
- 消防庁においては、これまでに第四類の危険物のうちエタノールを含有するもの（いわゆるE3,E10）を取り扱う給油取扱所について必要な安全対策の検討を行い、技術基準（危険物の規制に関する規則第28条の2等）を定めている。
- 低炭素ガソリンの供給開始までに、**既存の給油取扱所の活用**やE10,E20を取り扱う給油取扱所の**消防法令上の問題点について調査検討**する必要がある。

令和 7 年度の検討について

- E10,E20を想定した**最新の技術開発の状況**及び**既存施設の活用**等を踏まえたバイオエタノールの導入拡大に係る規制について、**先行事例の調査**（海外調査等）を実施することとしてはどうか。
- 上記調査を踏まえ、**既存の給油取扱所の活用を視野に入れた課題点の抽出**を行うこととしてはどうか。

第1回検討会における主な意見

- **漏えいへの対応、誤給油対策、泡消火の有効性**も課題となるのではないかな。
- **給油方法や混合方式**については正式に方針が示されていないが、何か前提を置いて議論するということか。
- **E10・E20の物性**（水に溶けるのか、品名等）を**把握する必要**があるのではないかな。
- ガソリンの場合、**地下タンク気相部は爆発上限界**であるが、**エタノールの含有割合が高くなった場合の爆発危険**についても注視する必要があるのではないかな。